

審議会等の女性委員登用に関わるヒアリング結果について

1 対象審議会 21審議会(福祉関係6・教育関係4・まちづくり関係4・その他7)、16所管課
 ※平成29年4月1日時点において、女性委員比率が20%以下の審議会等を対象とした。

2 委員数 206人(市長・市職員・市議会議員を除く)

(女性委員数/委員数)

0～5%未満	0人/2人	1人/26人	0人/5人	0人/6人	0人/4人	—	—
5～10%未満	1人/10人	1人/10人	2人/21人	1人/11人	—	—	—
10～15%未満	3人/22人	1人/7人	1人/7人	1人/7人	—	—	—
15～20%以下	3人/18人	2人/11人	2人/12人	1人/5人	1人/5人	1人/5人	1人/6人
※30%以上	2人/6人	—	—	—	—	—	—

※平成30年4月1日時点では、33.3%

(単位:審議会)

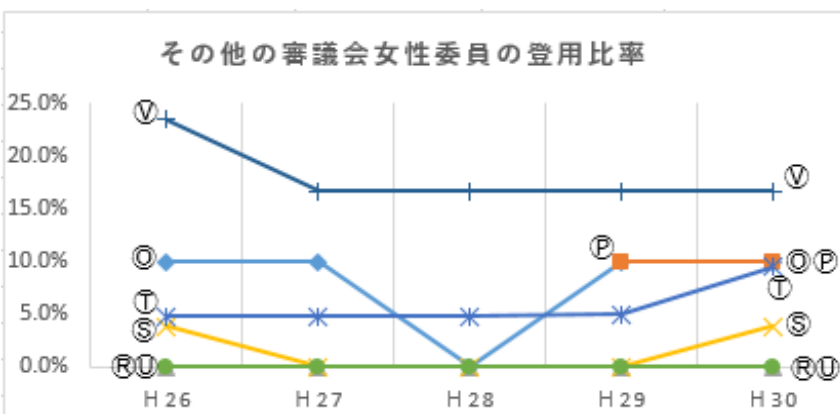
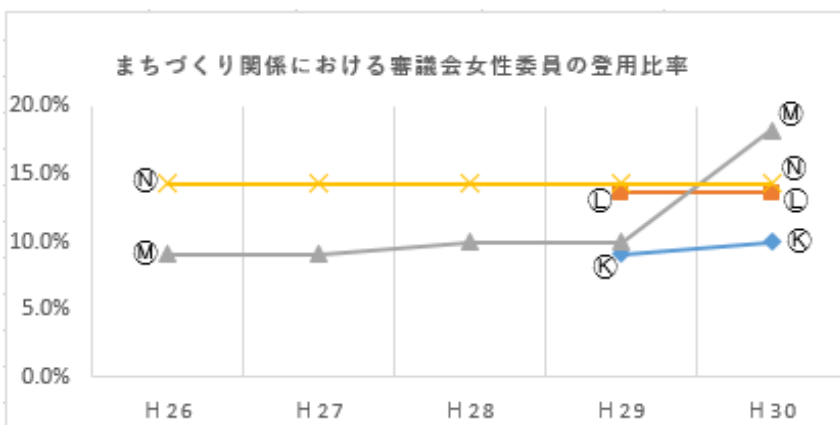
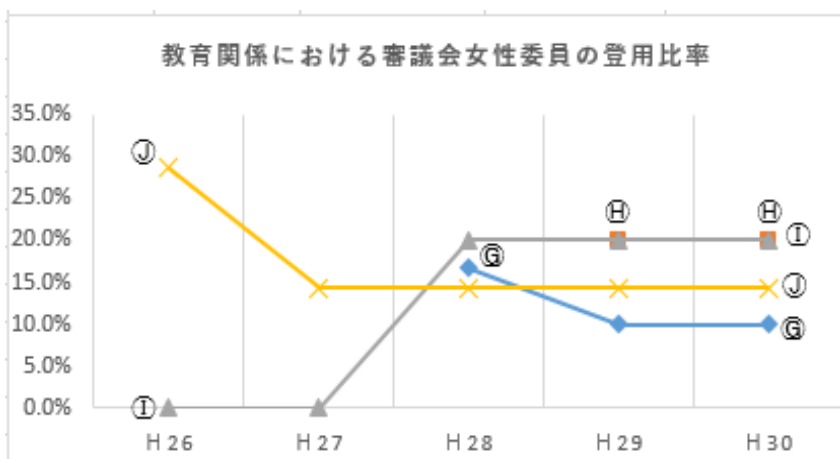
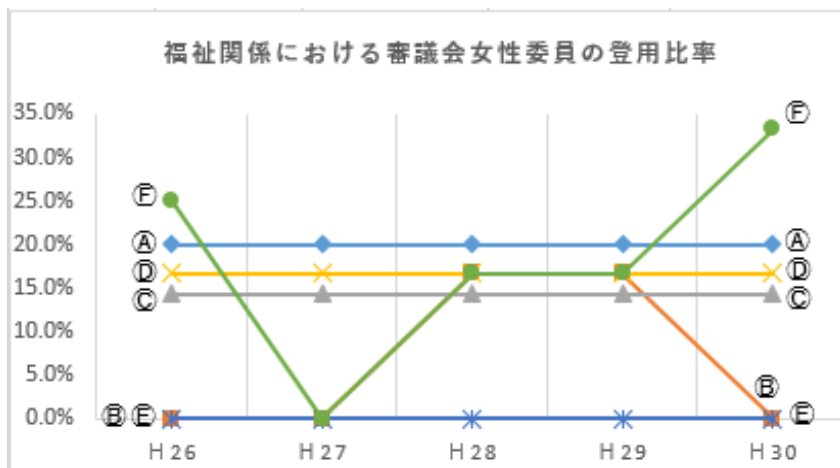
	福祉関係	教育関係	まちづくり 関係	その他	合計
0～5%未満	2	0	0	3	5
5～10%未満	0	0	1	3	4
10～15%未満	1	1	2	0	4
15～20%以下	2	3	1	1	7
※30%以上	1	0	0	0	1
合計	6	4	4	7	21

3 委員構成(女性委員の肩書きの内訳)

(単位:人)

	福祉関係	教育関係	まちづくり 関係	その他	合計
学識経験者	2	1	4	2	9
市民公募	0	2	3	2	7
団体(推薦)	2	0	0	5	7
団体(充て職)	0	0	0	0	0
府職員	1	0	0	0	1
その他	1	2	0	0	3
合計	6	5	7	9	27

4 直近5年間の女性委員比率の変化



5 女性委員比率が低い要因について

【福祉】

- 推薦依頼の際に、女性委員の登用について説明をしていないため。
- 女性医師が少ないため。
- 専門分野(医療等)の代表者に男性が多いため。
- 団体から女性が推薦されることが少ないため。(2件)
- 専門分野の見識を有する者の中に女性が少ないため。

【教育】

- 団体からの推薦の際に、女性が推薦されないため。
- 専門分野に女性が少ないため。(3件)

【まちづくり】

- 団体・関係機関等での女性の絶対数が少ないため。
- ほとんどが充て職であり、団体の推薦の際に女性委員登用の配慮を求めたが適任者がいなかった。
- 女性委員の人材情報や必要とする分野の専門家が少ないため。(2件)

【その他】

- 関係機関・関係団体に毎年女性委員登用について配慮を求めているが、女性委員の推薦を得られなかった。
- 専門分野に女性が少ないため、団体から女性の推薦を得られなかった。(2件)
- 団体から女性委員を推薦してもらえなかったため。
- 部長級以上の市職員の充て職かつ関係機関・関係団体は女性が少ないため。(2件)
- 大阪府市長会での推薦であり、専門分野の医師に女性が少ないため。

6 女性委員登用を図るための実施可能な方策について(重複回答可能)

(単位:審議会)

①学識経験者の委員選考にあたり、女性の登用を図る。	3
②委員選出基準の見直し(充て職の緩和等)	1
③団体等からの推薦による委員について、女性構成員の推薦を依頼する。	13
④女性が現に就いている職種から委員を選出する。	2
⑤女性が多い団体等には、他の団体に優先して委員派遣を要請する。	0
⑥その他 ※	2
⑦審議会の性格上、可能な方策がない。	4

※ ⑥その他について

- ・市民公募において女性委員の登用を図る。
- ・委員推薦の際に女性登用の趣旨を説明し、願う。